

果樹の雪害防止対策に関する情報（第4報）

秋田県果樹試験場

1 積雪の状況

県南部の積雪は2月13日に190cm（図1 果樹試験場本場横手市）に達し、20日現在で164cmとなっている。

雪質の状況は図2に示すとおり、60～110cmに「しまり雪」があり、120～160cmに3層のザラメ雪を挟んで11日～13日の降雪が沈降した密度の高い「しまり雪」の層ができています。わい性台樹などの下枝はこの層に埋没しており、今後、更に沈降して雪密度が増すと欠損、折損の危険性が高まる。雪密度が300 kg/m<sup>3</sup>を超えると枝が抜けにくくなるので、枝の周りの雪がまだ軽いうちに掘り上げを早めに行うとともに、施設の破損、倒壊の発生が懸念されるので、施設周辺の除排雪などを実施する。

また、アメダス横手の観測において1979年以降累積降雪量が10mを超えたことが3回記録されており（1985-86年 1191cm、2013-14年 1091cm、1983-84年 1043cm）、今シーズンは2月19日で1001cmに達し、記録を更新する可能性が高い。このため、雪の絶対量が多く、除雪の回数も多くなっている。

2月15日発表の東北地方1か月予報では、東北日本海側は平年より降雪量が多い見込みであり積雪量はさらに増えることが予想される。早めの対応を心がけ、雪害防止に十分留意する。

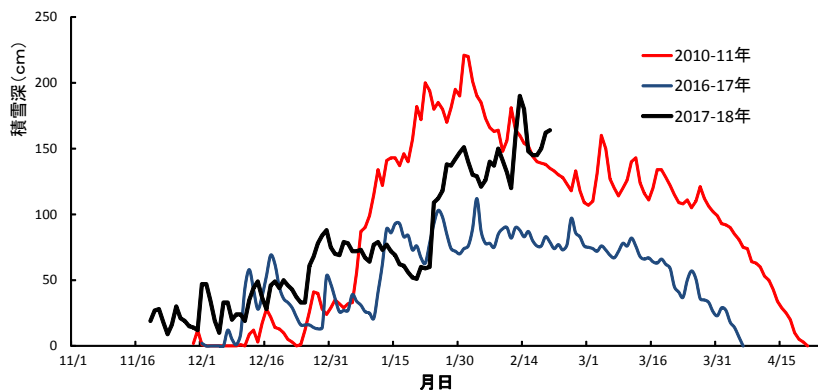


図1 積雪深の推移（果樹試験場本場 横手市）

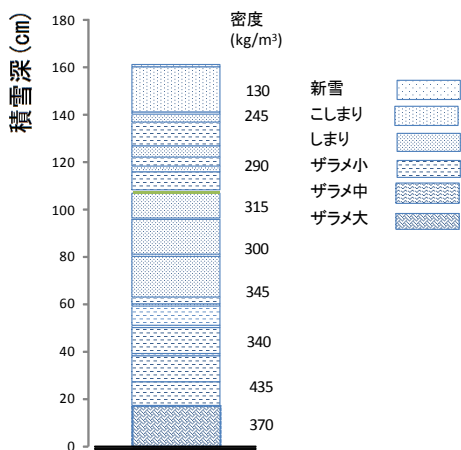


図2 積雪断面の状況  
（2月15日、果樹試験場本場）



図3 リンゴわい性台樹の状況（2月14日）  
（木柱は雪面上1mしか見えない）

## 2 雪害防止対策

### ① 樹上の雪下ろし

木に積もった雪を雪ベラなどで落とす。以前に雪害を受けて補修した木は、再度被害を受けやすいので優先的に作業を行う。

### ② 枝の掘り上げ

リンゴわい化樹、マルバ台樹の大枝についた側枝など、雪に埋没した下枝が積雪の沈降で枝折れするのを防ぐために、枝の掘り上げを行う。枝を掘り上げたら枝下の雪は踏み固めて枝が沈降しないようにする。

マルバの主枝、垂主枝、わい化樹の主要な下枝などがしまり雪の層に深く埋没し、掘り上げが困難な場合は、引き上げを妨げている横枝を切断して（図4）、大枝を上げて守るようにする。

### ③ 野そ被害の防止

幼木や若木だけでなく埋没した側枝にまで既に野そ被害が発生しているため、枝折れ被害防止と合わせて側枝を早急に掘り上げる。また、今後の被害防止のため主幹部の周りをしっかりと踏み固める。

### ④ 施設の除排雪

雪が軽いうちにブドウ棚やリンゴ園のトレリス、オウトウ園の雨よけハウスなどの除排雪を行う。トレリスの鋼線、ブドウ棚の番線などが雪に埋没すると沈降力で引き下げられ施設の破損や倒壊を招くので雪に埋没させないように早めに対応する。

### ⑤ 消雪剤の散布

晴れの日が2日以上続くような日に消雪剤を散布する。

資材として木炭等を粉状にした粉炭（粒径1～3mmのもの）を用い、10 aあたり30 L程度を薄く均一に散布する。消雪剤の散布により、雪質が「ざらめ雪」に変化し、雪と枝との密着が軽減される。積雪期間に3回程度散布すれば、消雪が7日～10日程度早まる。

### ◎ 累積の降雪量が10mを超え、除雪作業を終えると降雪の繰り返しで心身ともに疲弊していると思われます。

日長時間も長くなり、月末には気温も上昇しそうです。沈降する雪に負けないようもう一踏ん張りです。ケガのないよう作業を進めましょう。

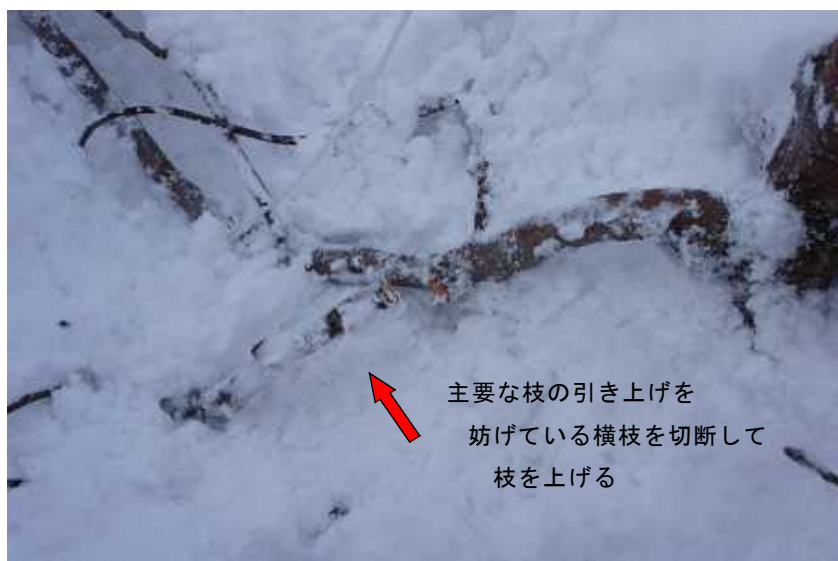


図4 横枝の切断による主要な枝の引き上げ